

東邦大学医療センター大森病院産婦人科重点研修プログラム

大森・選択専攻科目

耳鼻咽喉科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患領域は多岐にわたり、生理機能面でも複雑な内容である。
また、急性期疾患が多いため迅速な対応が求められる。
日常診療における身体所見の把握とともに、病態生理についても習熟して的確な初期医療が行ない得る診療能力を体得することをGIOとする。

2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター大森病院耳鼻咽喉科のスタッフ会議にて、本プログラムの管理、運営を検討する。プログラムの内容や運営に問題が生じたときは合議の上で修正や変更を行い、必要に応じて臨床研修指導医を対象とした管理・運営会議を開催して情報の伝達やアドバイスをを行う。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。
東邦大学医療センター大森病院1号館4階病棟に配置される。臨床研修指導医の下で病棟の患者を担当し、手術室において耳鼻咽喉科・頭頸部外科の手術を、また外来において耳鼻咽喉科専門処置や検査手技を習得する。

3-2 一般目標（GIO）

外来、入院患者の診療を通して、一般的な耳鼻咽喉科疾患について理解し、耳鼻咽喉科診察手技の習得を目指す。
カンファレンスや回診などに参加し、耳鼻咽喉科診療の一員として行動する。

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 耳鼻咽喉科疾患における重要な症状を理解し、適切な身体診療を行なうことができる。
- 2) 症状、状態に応じた適切な検査を選択することができる。
- 3) 鑑別診断と重症度の評価を行うことができる。
- 4) 手術に際しては術前・術後の周術期管理とリスク評価ができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 問診にて重要な耳鼻咽喉科疾患の可能性を考えることができる。
- 2) 身体検査にて耳鼻咽喉科ならびに頭頸部の所見を的確に把握し、記載できる。
- 3) 聴力検査の結果を理解し、説明できる。

- 4) 平衡機能検査の結果を理解し、説明できる。
- 5) 舌圧子を用いて口腔、咽頭所見を観察し、説明できる。
- 6) 後鼻鏡、咽頭鏡で上気道を観察、説明できる。
- 7) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 難聴・耳鳴・耳閉塞感
- 2) めまい・めまい感・眼振
- 3) 鼻閉塞・いびき・呼吸障害
- 4) 急性中耳炎
- 5) 内耳性難聴
- 6) 良性発作性頭位眩暈症
- 7) 鼻アレルギー
- 8) 副鼻腔炎
- 9) 急性扁桃炎
- 10) 音声障害（声帯ポリープ、反回神経まひ）
- 11) 頭頸部悪性腫瘍（喉頭癌、舌癌）
- 12) 上気道の確保（気管内挿管、気管切開）

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

救急医療現場を経験する。

バイタルサインの把握ができる。

重症度・緊急度の把握ができる。

鼻出血の初期治療ができる。

呼吸障害の初期治療ができる。

めまいの初期治療ができる。

耳痛に対する初期治療ができる。

3-4-1 学習方略（LS）

- 1) 病棟業務
 - ・回診毎月曜日に耳鼻科処置室にて入院患者に関する情報を共有し、

教授の指導のもと、患者の状態をベッドサイドで確認する。

- ・病棟処置

毎日9時から耳鼻科処置室にて入院患者を診察し、状態に変化がないか確認し、必要に応じて処置を行う。

- ・入院患者診察

臨床研修指導医と共に疾患に関する自己学習を行い、治療方針を検討の上、必要に応じて検査、処置、投薬を行う。

2) 外来業務

- ・事前に診察手技について臨床研修指導医と共に習得したうえで、

患者に対してアナムネをとり、必要に応じて診察手技を行う。

- ・検査や治療についても、研修医自身で検討したうえで臨床研修指導医に確認。

臨床研修指導医と共に患者に施していく。

3) 検査

- ・聴力検査

- ・鼻咽腔、喉頭ファイバースコープ

- ・嚥下内視鏡検査

- ・赤外線 CCD 眼振検査

- ・画像検査 (CT・MRI 含む)

4) カンファレンス・勉強会

- ・手術症例カンファレンス (毎週月曜日)

手術症例のカルテ・画像を供覧し、方針について確認、検討する。

- ・抄読会 (第2月曜日)

担当医師がトピックとなるような英語論文を解説し、医局内で勉強する。

- ・放射線カンファレンス (第1月曜日)

放射線科医師とともに、放射線治療適応患者について検討する。

- ・めまいカンファレンス (月1回木曜日)

診断に苦慮しているめまい症例を供覧し、検討する。

めまい診療のスキルアップのため、めまい疾患や検査について勉強する。

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8:30~	外来/手術	手術	病棟/外来	外来/手術	病棟/手術	外来/病棟
14:00~	手術	手術	外来	手術	手術	
	病棟回診					
	医局会					

3-5 評価（EV）

耳鼻咽喉科疾患に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）の習得の程度を基準として評価する。診療チーム長（病棟長・外来医長）および上級医を対象とした評価表を使用する。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、基幹病院である東邦大学医療センター大森病院耳鼻咽喉科の指導責任者にある。研修医は診療チームに配属され、チーム長（病棟長・外来医長）の指導下でチームの一員として指導を受ける。チーム長以外の上級医からもさまざまな指導を受けるが、直接的な指導責任はチーム長の臨床研修指導医にある。聴力検査については臨床検査技師からも指導も受ける。

3-6-2 臨床研修指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

国際親善総合病院

汐田総合病院

※ 床研修病院群〔プログラム冊子添付資料〕参照